

イラストレーションと ジンの組み合わせによる 個の表現の探究

～ノスタルジーをテーマとして～

芸術研究科 造形表現専攻
デザイン領域 博士前期課程
2024年3月修了

竹村さくら

主査 田承焮 副査 三枝孝司 西川洋一郎

研究背景

本研究ではイラストレーションとジンの組み合わせによって、鑑賞者に個人的な感情や思い出を想起させる「ノスタルジー」の表現について制作研究を行った。ジンは個人あるいは小規模のグループによって作られた、商業的な利益を目的としない、自己の表現・感情を共有するためのインディペンデントで自由に作られた出版物のことで、情報発信や、共通の趣味趣向を共有するためのコミュニケーションツールにもなっている。目に見えないものを可視化することができるイラストレーションとジンの性質を組み合わせることで、個人的な記憶との結びつきによって懐かしさを感じる風景や物、人物であっても、作品を見る側にも個人的な感情や思い出を想起させることができるのではないかと考えた。

研究目的

本制作研究では、現在を生きる人々、思い出の場所や記憶を懐かしむノスタルジーをテーマに、私の地元である「小倉」を描いたイラストレーションを制作した。さらにイラストレーションをジンとして構成し、個人の記憶や感情の表現であっても、読み手が特別な瞬間として共有できるコミュニケーションツールとなることを目指す。また、現在多くのイラストレーターが、作品を多くの人に届ける手段の一つとしてジンの制作をおこなっている。私もイラストレーターとして活動していくなかで、自分の作品を多くの人に知ってもらうためにジンを制作する必要があると考えた。

研究概要

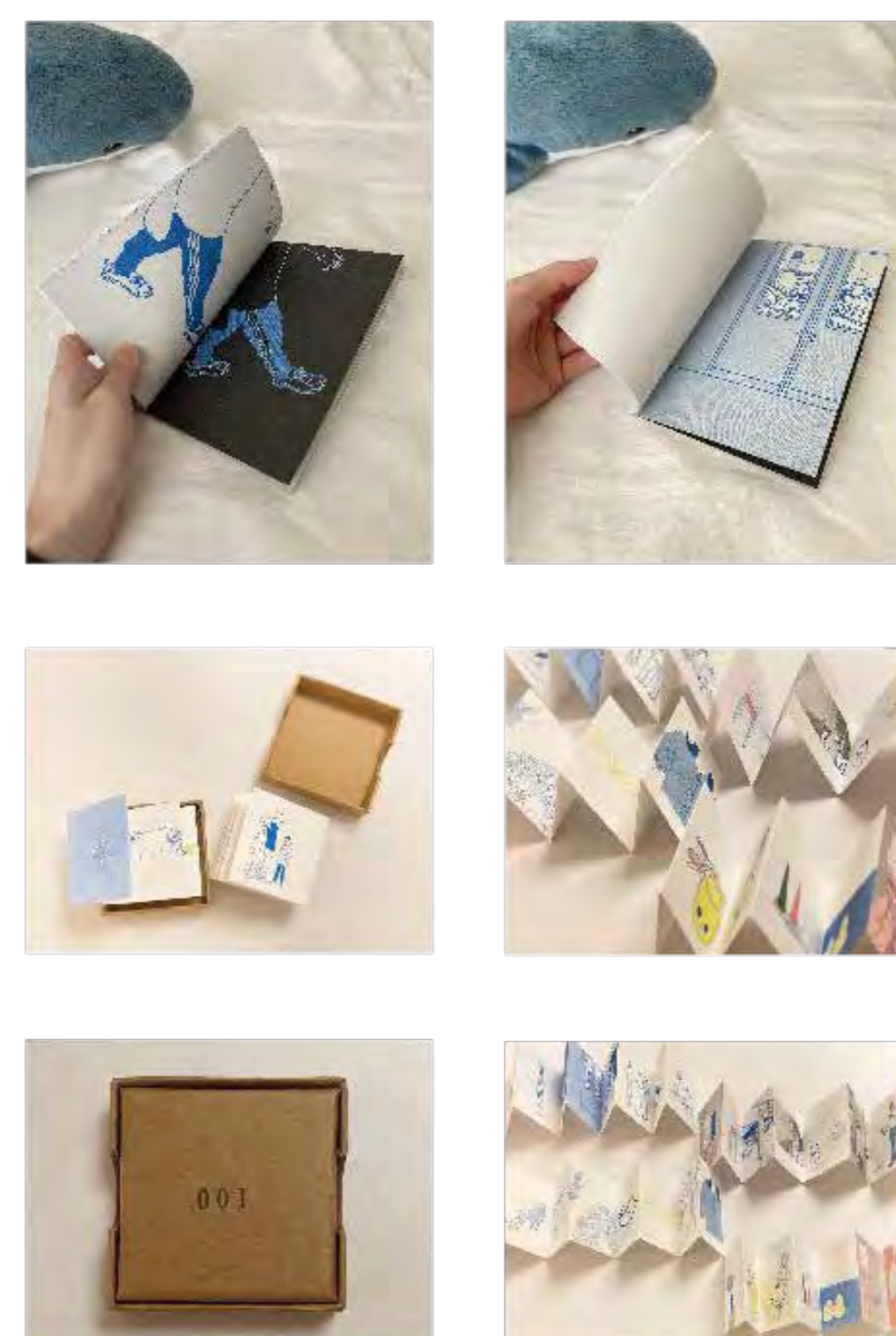
制作研究

タイトル「○○day」

現代を生きる人々、思い出の場所や記憶を「小倉」を舞台に再構築し、自分でない「誰か」の目線・記憶であっても、共感でき、懐かしいと感じてもらえるようなモチーフの選択・構成をした。タイトルの「○○day」という言葉は、「○○の日」という基本形で、このジンが誰かにとっての記念日・一日・○○の日」と感じてもらえるよう設定した。印刷方法はリソグラフを採用した。リソグラフの特徴である、版ズレ、色ムラ、かすれなどの仕上がりから生まれるアナログな懐かしい風合いによって、より感情を想起させるイラストレーションジンを制作することができた。またジンは無線綴じと蛇腹折りの二種類の製本方法を採用し、同じ内容でも製本によって違った表現ができるということを探究した。

～研究概要～

- ジンの起源～現状日本のジンについての調査
- イラストレーションとジンを組み合わせた作品の先行研究
- ノスタルジーをテーマとする理由の探究
- 取材・作品制作・発表



成果・まとめ

- モチーフ/印刷方法/材料/ジンの形態の選択の工夫
イラストレーションが視覚情報の伝達の役割だけでなく、見えない感情や記憶を想起させる役割を果たすことができる。
- 今後は、感情を想起させるイラストレーションを描く上で共感を呼ぶ要素、多角的な視点の探究が必要となる。
自然(川・木々など)の風景をもっと取り入れることで、より感情を想起させるものとなったのではないかと考えた。



指導教員コメント

AIによる画像再生の時代が到来しましたが、その一方、アナログ表現をデジタル表現として活かし、個人的な感情や思い出を喚起する『ノスタルジー』の表現に焦点を当てた制作研究を行ったことを高く評価します。この研究では、技術の進化と共に失われつつある古き良き時代の感覚を再現し、新たな視点からそれを探求しました。小冊子ZINEにまとめた成果は、単なる技術の応用ではなく、感性と技術の融合を通じて生み出された独創的なアート作品として評価します。特に、単なる視覚的な刺激を超え、観る者の心に深く訴えかけるものとなっています。

今後、デザインの仕事と共に個人的アート活動にもこの研究を活かして頑張ってください。

田承焮